

女性は喘ぐ
押寄せた一千名

地下鐵募集のシヨップガールに

就職 苦色濃し

茲にも現はれる

コでも動かない。

女性の職業戦線、街頭進出は既に彼の女達だけで、重要な社会層を形づくつてゐる。現代その若き女性達の就職戦線にも既に恐ろしいやうな競争が出現しつつある——去る十月十二日朝東京駅八重洲口の大通りに時ならぬ若い女性の大群がひしめき、午前七時頃から刻々増加する一方で正午過には其數一千餘名に達し、東京建物ビルの金ピカの玄關を中心に鋪道を埋める断髪東髪、お下げ、耳隠しから洋装和装、赤青黄紫のバラソルも秋晴の空に眩ゆいばかりの華かさ

鮮人三百五十名
明治神宮に祈願

同胞の慘状に
神靈の加護を

見た眼には華やかだが實は生活戦線に進出しよとする近代女性必死のデモ！これは地下鐵ストアで四百名のショップガールの募集をしたのに對し、押し寄せてもの、内に入り切らん爲六百餘名が街頭に溢れて順番を待つてゐる。中も一パイだから直して午後から來て……『あんまり澤山集まると交通の妨害だからホースで水を掛るぞ』門番のおどかしも何のその、美しい群集は勇敢にガンばつてテ

所謂る萬寶山事件によつて二百萬人の朝鮮人が支那官民の暴虐に遭ふて満蒙の野から追れ、近くは滿洲事變以來支那官民の一方朝鮮人の内地渡航は、内地に進出する。内に入り切らん爲六百餘名が唐殺され、ため幾多の朝鮮人が唐殺され、の前に、この朝鮮同胞の慘状に十萬有する鮮人團體相愛會では、全國六十數支部の代表三十人明治神宮に參拜、先帝の神靈

一方中央朝鮮協會、獨立國策協所が八年過ぎたけふ奇しくも南洋サバイパンから百七十哩北方の一無人島に漂着、生きてゐること一月となり今日まで死んだものとされてゐた。君が大正十一年八月南洋軍一等機關兵薦科浦次（現在四十一）君が大正十一年八月南洋方面で測量中に墜落して行方不明となり今日まで死んだものとされてゐた。

主事盧永九氏は語る『北より追はれ南は塞かれて俺達同胞はどうすればいいのだ』悲痛な叫びをあげた朝鮮人が達して、『我等は御心にせざる者』が判つた。發見したのは同方

が父島海軍無線電信局齊藤正雄の耳に入り、七日夜無電で中佐の報告して來たのである。浦次君を發見したのは今春四月ごろらしいが、何故か漁船の船員が乗組員に『一切秘密にせよ』

者、眞に文學を制作しようとする人達が完全な社會に氣持ちよく住むやう努力せねばならぬのである。文學が社會的にどんな地位を持つか、それは今迄に討論されてすでに決定してゐることである。文學は等の社會の一翼である。我々社會に於ける英國の文學批評家は「人生の批評」の中に正しい自己の進路を見出ださないかも知れない。併し我々は義務として文學が社會にさつて文學なんぞに空疎なもので、その必要をさへ認め難いかも知れない。そしてこのまま投つて置いてよいかも知れない。併し我々は義務として文學が社會に供してゐる。それは即ち社會の正しく生きねばならない。めつては遠く批評にも通じる。批評などないことをふきである。前に進まねばならないのである事程、出題目な事はない。今迄再三種民のだ。私はせん然ながらこの廣文堂愛好

景品の種類——蓄音器、日の出膏油八十立詰、洋服類、毛糸編製品、洋傘、メリヤス類、學用品類、小間物化粧品類、日本のお菓子、等其他

福引券は御買上金額參拾五コントス也

（絶対空鑑はムのません）

景品の種類——蓄音器、日の出膏油八十立詰、洋服類、

毛糸編製品、洋傘、メリヤス類、學用品類、小間物化

粧品類、日本のお菓子、等其他

福引券は御買上金額參拾五コントス也

（絶対空鑑はムのません）

景品の種類——蓄音器、日の出膏油八十立詰、洋服類、

毛糸編製品、洋傘、メリヤス類、學用品類、小間物化</

何處にも普通有る見悪い遺産争ひ

發明王の追加遺言から

國の何處を問はず能く有る事ではあるが、茲に云ふ事件は發明王エデソンに絡まる事だけに過ぎない。そして其の事件は云ふは遺産争ひで、故エデソン翁の遺産千二百萬弗が、其の大半は翁の二度目の夫人である未亡人の息子チャールズ及びオードア・エデソンが主な管理人となり前妻の遺子等合計六人で分配することとなり、未亡人で分配することとなり、未亡人には翁が生前別に莫大な現金を残したことにより今度の遺産分配には何等關係のないこととなつて居るのである。

前妻の第二子で目下カキミントンでアオの發明に努力して居るカキミントンのものには何等異存はないが財産分配を第二夫人の遺子に管理せしめたる「追加遺言」に不服を申立て近く法廷に訴えを起こした。不服とする理由は「追加遺言は亡父が既に電気工事で死去して居た時代の後妻の死が生きて居た時代の完成したのは後妻の死から別にこれと云つた發明はな

總領事館の移轉確定

現在リベロバダロ一街の日本總領事館は

大部は翁の二度目の夫人である未亡人の息子チャールズ及びオードア・エデソンが主な管理人となり前妻の遺子等合計六人で分配することとなり、未亡人で分配することとなり、未亡人には翁が生前別に莫大な現金を残したことにより今度の遺産分配には何等關係のないこととなつて居るのである。

前妻の第二子で目下カキミントンでアオの發明に努力して居るカキミントンのものには何等異存はないが財産分配を第二夫人の遺子に管理せしめたる「追加遺言」に不服を申立て近く法廷に訴えを起こした。不服とする理由は「追加遺言は亡父が既に電気工事で死去して居た時代の後妻の死が生きて居た時代の完成したのは後妻の死から別にこれと云つた發明はな

たれば尋ねてゐる中、近頃ブリガディロ・ルイス・アントニオ街八番に恰好の家が見當り借り受け交渉中の處愈々話し纏まり、月中に引越しを終了して来月初めから新館に於て事務を執る由であるが、新總領事館となる家はシネマ・バラモントの二、三軒上である。

ラベーロ執政官特使をリオ府へ

新任のサンパウロ州執政官マノエル・ラベーロ大佐は、聯邦政府に州政を報告し且つ各長官選任のサムソナード・アルメーダド氏を特使としてリオ府に派遣する事になつた。

婦人の爲め就職戦線を解消する労働(十時より午前五時)を絶対に禁じ、各種工場其他に於ける

婦人の爲め就職戦線を解消する労働を休止することを得させしめ

た、即ち同法にては婦人の夜間労働(十時より午前五時)を絶対に禁じ、各種工場其他に於ける

婦人の爲め就職戦線を解消する労働を休止することを得させしめ

た

Notícias do Brasil

24 de Novembro de 1931 No. 740

日曜火 號十四百七十一日四十二月一十年六和昭



千葉周作の巻 (十二)

理太郎はその意外に驚いた。周作は無論下段星眼に構えるであらうと思つてゐたし、自分は上段に位取らうと兼々思つてゐた所であつたが、咄嗟の間にいち早く周作に上段に構えられ、狼狽して下段につけるより外仕方がなかつた。

かく周作は苦もなく理太郎を打ち込んでしまつた。

すべて周作の兵法は動く事を主眼とした。決して居付かない、その構えの如きも相手により機に應じてするを念とした。

水戸の烈公が弘道館演武場を開いて、當時知名の劍士を招いたが、周作は男谷の推薦によつてその師範方になり、百石を給せられた。その教授の多くは、高弟の海保範平及び伴の榮次郎が係つてゐた。

周作には四人の子があつて、長男奇蘇太郎、次男榮次郎、三男道四郎、四男多門四郎、四人共勝れた腕前を持つてゐたが、長男は夭折し、次男の榮次郎は傑出したので、評判が高かつた。

門人中傑出した者には、海保範平を始め井上八郎、塚田孔平、稻垣定之助、庄司辯吉、大羽藤藏などあり、幕末の志士阪本龍馬、清川八郎、又櫻田事件の志士で薩州の有村次左衛門などを周作の門弟であつた。

周作の弟定吉も中々の名創客であつた。彼は橋町に道場を開いて於玉ヶ池の周作の大千葉に對して、これは小千葉と云はれた。

安政二年二月に長男が死ぬと、十一月十日に周作も亡き人の數に入つた。年六十一、王政復古を前にして、最後の夕映の如き名創客であつた(終り)。

當流で、喜兵衛は十三歳の宮今放鄉、小田原へ歸つた鬼角は、微

理太郎はその意外に驚いた。周作は無論下段星眼に構えるであらうと思つてゐたし、自分は上段に位取らうと兼々思つてゐた所であつたが、咄嗟の間にいち早く周作に上段に構えられ、狼狽して下段につけるより外仕方がなかつた。

かく周作は苦もなく理太郎を打ち込んでしまつた。

すべて周作の兵法は動く事を主眼とした。決して居付かない、その構えの如きも相手により機に應じてするを念とした。

水戸の烈公が弘道館演武場を開いて、當時知名の劍士を招いたが、周作は男谷の推薦によつてその師範方になり、百石を給せられた。その教授の多くは、高弟の海保範平及び伴の榮次郎が係つてゐた。

周作には四人の子があつて、長男奇蘇太郎、次男榮次郎、三男道四郎、四男多門四郎、四人共勝れた腕前を持つてゐたが、長男は夭折し、次男の榮次郎は傑出したので、評判が高かつた。

門人中傑出した者には、海保範平を始め井上八郎、塚田孔平、稻垣定之助、庄司辯吉、大羽藤

藏などあり、幕末の志士阪本龍馬、清川八郎、又櫻田事件の志士で薩州の有村次左衛門などを周作の門弟であつた。

周作の弟定吉も中々の名創客であつた。彼は橋町に道場を開いて於玉ヶ池の周作の大千葉に對して、これは小千葉と云はれた。

安政二年二月に長男が死ぬと、十一月十日に周作も亡き人の數に入つた。年六十一、王政復古を前にして、最後の夕映の如き名創客であつた(終り)。

平井八郎兵衛の巻 (一)

平井八郎兵衛の名は、世間に餘

り知られてゐないが、頗るの達

者であつたらしい。彼は一羽派

平井八郎兵衛の名は、世間に餘り知られてゐないが、頗るの達

者であつたらしい。彼は一羽派

平井八郎兵衛の名は、世間に餘

り知られてゐないが、頗るの達

社 告

性

家

庭

御

調

髮

併

に

致

す

ま

し

ま

し

ま

し

ま

し

ま

し

ま

し

ま

し

ま

し

ま

し

ま

し

ま

し

ま

し

ま

し

ま

し

ま

し

ま